

政府・東京電力中長期対策会議 研究開発推進本部 第8回会合 議事概要

日 時：平成24年8月27日(月) 11:50～12:15

場 所：東京電力 本店 本館1201会議室

出席者：中塚副大臣(内閣府)

【本部長】北神大臣政務官(経産省)

【副本部長】園田政務官(内閣府)，神本政務官(文科省)

【構成員】朝日委員(経産省)，相澤委員(東電)，大竹委員(文科省)，金山委員(産総研)，
岡村委員(東芝)，横山委員(電中研)，浅間委員(東大)，井上委員(電中研)，田
中委員(東大)，山名委員(京大)

議 事：

1. ご挨拶

(北神大臣政務官)

- ・ 7/30 に中長期ロードマップならびに研究開発計画が改訂された。改訂のポイントとしては、人材育成、研究拠点構想の取組、当面の課題の明確化の3点。
- ・ 燃料デブリ取出しの進捗は、内外から注目されており、随時情報を発信していかなければならない。
- ・ 本日の議題ではないが、実効性のある研究体制をつくらなければならない。大学や研究機関と連携しながら人材確保することも含め、体制の強化についても皆様にご協力いただきながら検討を進めていきたい。

2. 研究開発計画の改訂について

資料1に基づき、事務局(エネ庁)より説明。

- ・ 基本的考え方等に変更はなく、各分野毎の具体的取組み等を本文に記載。推進体制、研究拠点構想、国際協力、人材育成等については、これまでの研究開発推進本部の状況を纏めたものを反映。

3. 個別研究開発プロジェクトの進捗状況について

ー燃料デブリ取り出し準備のための機器・装置開発

資料2に基づき、プラントメーカー3社(東芝、日立GE、三菱重工)より説明。

- ・ 現場主義、内外叡智活用等の基本方針を遵守し、研究開発を計画通りに進捗中。
- ・ 除染技術の開発では、現場状況を反映するとともに、技術カタログを活用した装置開発を推進中。今後、PCV関連の他の装置についても同様に進めていく予定。
- ・ 長い研究開発の中では試行錯誤の取組が多々あると思うが、成功事例に関しては記録に残りやすい一方で、失敗した技術に関しては残りづらい。技術の選定過程や失敗例を含めて、記録に留めておくよう努めていただきたい。(横山委員)
→遠隔技術に関しては、遠隔技術TFの中で技術の蓄積についても議論しているところ。(エネ庁)
→どのような仕組みにするのがよいか、具体的な仕組みについては今後議論してい

きたい。(東電)

4. 東京電力(株)福島第一原子力発電所の廃止措置等に向けた機器・装置開発等に係る福島ワークショップ(結果概要)

資料4に基づき、事務局(エネ庁)より説明。

- ・ 8/7 に地元の方を対象に研究開発の動向を説明するための WS を開催し、福島県内をはじめ約 150 名が参加、活発な議論が行われた。9/14 まで福島県の企業からの技術提案を募集した上で、今後の連携について検討予定。

5. 終了ご挨拶

(北神大臣政務官)

- ・ デブリ取り出しに向け、本日意見のあった記録の保存にも留意しつつ、今後も東電の現場状況を逐次反映、ニーズに柔軟に対応しながら、研究開発を進めていただきたい。

6. その他

- ・ 次回の会合は以下の日程で開催予定。

平成24年9月24日(月)11時00分頃～ (運営会議終了後)

以上